

ロータリークラブに期待するもの、そして私の目指すもの

望 月 美 怜

静岡産業大学情報学部
国際情報学科 小出ゼミ

私の夢は将来、父が経営する会社「アクア中部」の後を継ぐことです。まだまだ駆け出しの会社なので、現在は父一人で営業から技術職、事務の仕事まですべてを行っております。技術職とは主にプールや温泉、ビル、食品工場などの水を清掃する機械をメンテナンスする仕事です。病院や食品工場の排水を扱う汚いところで仕事をするのもあれば、何百キロ単位の荷物を運ぶ力仕事もあるので、父は私に後を継がせる気はないようですが、私は父の始めた会社を続けていきたいと考えています。現在、少しずつですが事務の仕事を覚えて、手伝っています。しかし、仕事の内容をはっきりと理解しているわけではないので、私が父の会社を継ぐという話は夢のまた夢の話です。父が私に後を継がせる気がないのは、会社経営の大変さを知っているからだということは理解しているつもりでした。

しかし、今回ロータリークラブの冠講座を受講し、さまざまな職種の経営者の方々のお話を聞き、会社を背負うという仕事がいかに大変で責任重大であるかを実感しました。今の私には会社を経営していく上で必要な知識も技術も、人脈さえありません。この調子では、父の会社を継ぐなどという夢は絶対になんかできないだろうし、あきらめようと思っていたところに、土屋油店の土屋富士子社長のお話を聞きました。「出会い」というテーマでお話をして下さり、笑顔でいることの大切さを知りました。講義中に咳き込んで休憩に入られたときにも、ほかの方々が土屋さんを中心に和やかな雰囲気でお話されているのを見て、笑顔は人を惹きつけるということは本当なのだ実感しました。社長になるために必要なものをほとんど持たない私にもできることといえば、笑顔でいることしかないと思い、まずは小さくてもできることから実践していこうと決心しました。土屋さんのお話を聞き、笑顔でいることだけではなく、話し方も重要だと感じました。笑顔に穏やかさをプラスすることで、人から好かれる人間になると思うので、それ以降は、日常生活の中でも笑顔をやさず、話し方にも気を配るように心がけています。

まだまだ、男性中心の社会の中で女性が第一線で働くことは、困難を伴うことがあると思います。そこで、少しでも自分の人柄が、その職場にプラスになればよいと考えています。大学を卒業してすぐに父の会社と一緒に働くことはできませんが、違う会社で社会人としての経験を積み、少しでも早く父の会社を手伝うことができるようになりたいと思っています。

昔から両親には様々な場所に連れて行ってもらったり、沢山のことを経験させてもらったりしてきました。それらの経験ができたのは両親のおかげです。ただ単にお金を稼いで家にお金を入れることは、料理人をしている兄にもできることですが、父が今まで積み重ねてきた人脈や技術、人柄、希望を総合して作った会社を継げるのは、私にしかないと思います。

藤枝ロータリークラブの冠講座を受講したことで、私は私の夢であった父の会社を継ぐことを、夢で終わらせずに現実に行こうと、気持ちが大きく変わりました。世間には、私以外にも社会に出ることへの不安や、働くことへの悩みを抱えている人が数多くいると思います。私が今回の講座を聞いて、背中を押されたように、今後も、ロータリークラブの皆様には、インターンシップや講座を開いて、若者の悩みを解決したり、勇気や希望をもって社会に出ていけるように背中を押したりする存在でいていただきたいと願っています。

今回の講座を聞いて、私は、夢の実現に後押しされただけではなく、仕事に対する自分の視野も広がったと実感しています。今までは単純に、仕事をするということは自分が生活していくお金を稼ぐためのものだと考えていました。しかし、自分や家族のために仕事をするだけではなく、地域社会やそこに暮らす人々の幸せのために働くという一面もあるのだということを知りました。そして、ロータリークラブの皆さんが、私たちのために講義してくださったように、私もほかの人に対して、また社会に貢献するためにも働きたいと思うようになりました。

以前、テレビ番組で、飲み水が少なく、雨水や泥水を飲んでのどの渴きをしのいでいる国へ、日本人の井戸掘り職人が行き、現地の人々と協力して井戸を掘り、飲み水を確保するという企画を見たことがあります。その番組を見た当時は海外に行き、人を助けるということなど自分には絶対にできないと思い、私にはまったく関係のないことだと感じながら見ていました。しかし、社会貢献したいと考えなおしたときに、父が仕事としている水の清掃管理は、水が少なくて困っている人々の助けになれることではないかと思ったのです。しかし、父と私の二人だけでは、金銭面や体力面などを考えると、もちろん無理がある話だと思います。しかし、世界中にあるロータリークラブという団体の力を借りることができれば、私にも世界で困っている人のために何か手助けができるのではないかと思いました。そう考えると、私の将来に、今までとは違う新しい光が差し込んだように思いました。実現できるかどうかわからない大きな夢ですが、その夢に向かって、一歩ずつ、着実に歩みを進めていきたいと今は考えています。